

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	北区
学 校 名	中津小学校
学校長名	山口 祐子

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・中津小学校では、第6学年 57名

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語においては、平均正答率が66%と全国・大阪市平均を0.4～1ポイント上回った。平均無答率は1.8%で、全国・大阪市の平均を3～4ポイント下回った。領域別の正答率では、「読むこと」で全国・大阪市平均を5ポイント程度下回る結果となったが、それ以外の領域では全国・大阪市平均と同等あるいは上回る正答率であった。

算数においては、平均正答率が63%で全国平均を0.2ポイント下回り、大阪市平均を1ポイント上回った。平均無答率は0.3%で全国・大阪市の平均を3～3.5ポイント程度下回っている。領域別の正答率では、図形の領域での平均正答率が全国・大阪市を3ポイント以上下回った。数と計算・変化と関係・データ活用では全国・大阪市を1.5～3ポイント上回った。

理科においては、平均正答率が64%で全国平均を0.7ポイント、大阪市平均を4ポイント上回った。平均無答率は1.0%で全国・大阪市の平均を2.6～2.9ポイント下回っている。領域別の正答率ではエネルギー・粒子・生命・地球のいずれも全国・大阪市を上回った。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

領域別にみると、ほとんどの領域で全国・大阪市平均と同等あるいは上回る正答率であったが、「読むこと」で全国・大阪市平均を下回る結果であった。特に長い文章を読んで根拠となる文を見つける問題、条件を満たしつつ記述する問題に課題が大きく見られた。語彙や言語事項など知識・技能の面では概ね身につけることができているといえる。主体的に課題について考え、自分の立場や意見を明確にして述べていく学習に取り組んでいく必要がある。

〔算数〕

領域別にみると「数と計算」「変化と関係」「データの活用」領域が全国平均を上回っているが、「図形」で全国平均を下回る結果となった。領域ごとに基礎基本となる考え方は概ね身につけることができているといえる。全国的に正答率の低い、概数を用いて条件に合う考え方を考える問題、数量が変わった場合の割合を考える問題は正答率が低く、問題場面を日常生活場面と照合してイメージすることに課題があると考えられる。また、さまざまな場面でプログラミングについて取り組んでいく必要がある。

〔理科〕

いずれの領域についても、全国・大阪市平均と同等あるいは上回る正答率であった。問題場面での課題を適切にとらえ、知識・技能に結びつけることができているといえる。主体的に課題について考え、自分の立場や意見を明確にして述べていく学習に取り組んでいく必要がある。

質問紙調査より

家庭での基本的な生活習慣（朝食や起床就寝時刻）に関する質問に対して肯定的な回答をした児童の割合が全国平均に比べて高い。また、携帯電話、スマートフォン等の使い方について「家庭での約束をきちんと守っている」割合が全国平均より高い。基本的な生活習慣の確立は家庭の協力が不可欠であり、これまで懇談会、「学校だより」「保健だより」「校長室だより」等で伝え続けてきた成果である。ただ、電子ゲームやSNS、動画視聴にかける時間が2時間以上の児童が4割を超え、家庭学習の時間に影響していると考えられる。今後も、下の学年から学年に応じた学習時間のめやすを示し家庭学習を定着させ、個の課題や興味関心に応じた自主的な学習の効果を実感して意欲を高め、学力の向上につながるよう取り組みを続ける。

「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」「難しいことでも挑戦する」「人の役に立つ人間になりたい」などに当てはまると回答した児童は、いずれも全国平均を大きく上回っており、これまでの学級活動や児童会活動における実践の現れだと考えられる。

「自分と違う意見について考える」「課題の解決に向けて自分で考える」「自分の思いや考えをもとに新しいものを創り出す」など主体的に授業に向かう態度や意欲の項目について肯定的に答える児童の割合は、全国平均を大きく上回っている。主体的・対話的で深い学びのある授業への取り組みの成果が上ってきたと考えられる。「学習した内容について見直し、次の学習につなげる」の項目は肯定的に答える児童の割合が全国平均より低いことから、授業の振り返りや学習内容の日常への応用などに意識的に取り組むことで、さらに学力の向上につなげたい。

本校校区では、地域行事やPTA行事がさかん、こうした行事を楽しみにして積極的に参加する児童も多い。また、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている児童の割合も全国平均を上回っていることから、自分の住む地域への関心の高さがうかがえる。

今後の取組(アクションプラン)

結果から、どの教科も基礎基本の学習内容や考え方は定着しているが、主体的に課題について考え、自分の立場や意見を明確にして述べていくことには課題があることがわかった。

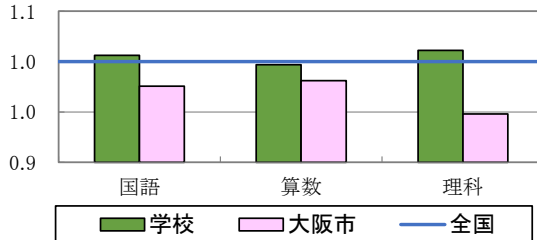
国語科の授業では、文章の構成を捉えることや、文章の構成を意識して書く活動を取り入れていく。また、「スマイルスタディタイム（モジュール）」を活用して、漢字検定の問題に取り組むことにより漢字や語彙の習得に努めていく。算数科では、計算に関して成り立つ性質を活用（計算の工夫）したり、式の意味を算数の用語を用いて表現したりする学習を積み重ねていく。理科では、課題から条件を設定して実験観察し、結果までを理科の言葉を適切に使って自分でまとめていく学習を積み重ねる。そして、「習熟度別少人数学習」や「学びサポーター」を有効に機能させ、個に応じた指導を進めていくことで学力の向上を図る。また、教科の授業の中で一人一台端末を効果的に使って、主体的・対話的に「調べる・まとめる・伝える」学習の取り組みを進める。一人一枚のホワイトボードを活用した学び合いやデジタルドリルでの個に応じた学習など、個別の学習ツールを活用した学習にも積極的に取り組んでいく。

【 全体の概要 】

平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	66.0	63.0	64.0
大阪市	64.0	62.0	60.0
全国	65.6	63.2	63.3

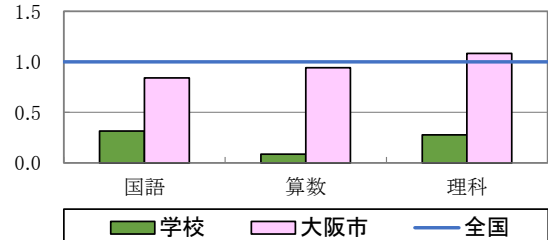
平均正答率(対全国比)



平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	1.8	0.3	1.0
大阪市	4.8	3.3	3.9
全国	5.7	3.5	3.6

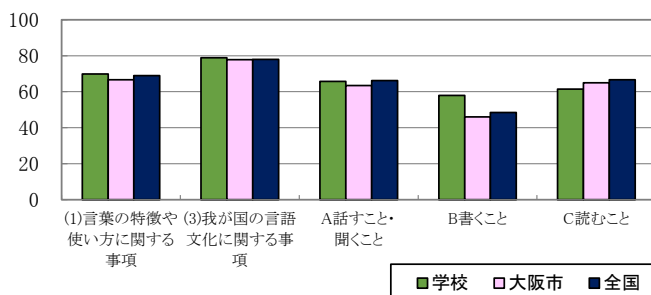
平均無解答率(対全国比)



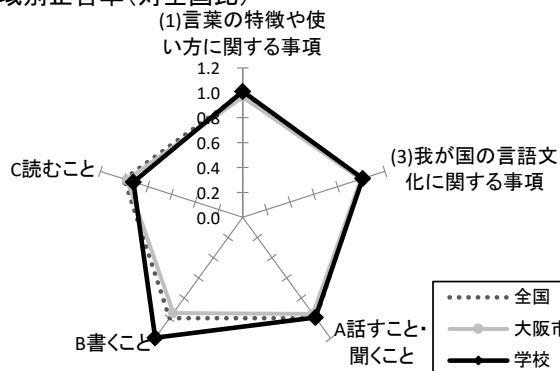
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使 い方に関する事項	5	69.8	66.7	69.0
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語 文化に関する事項	1	78.9	77.8	77.9
A 話すこと・聞くこと	2	65.8	63.4	66.2
B 書くこと	2	57.9	46.0	48.5
C 読むこと	4	61.4	65.0	66.6

国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



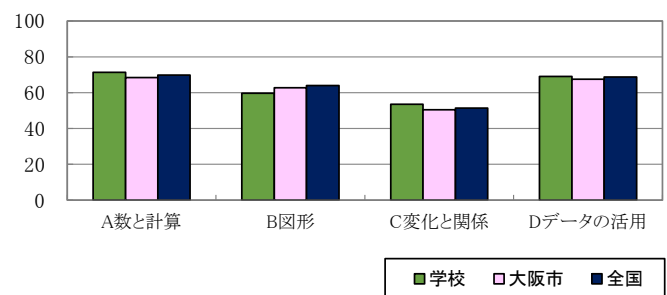
国語 領域別正答率(対全国比)



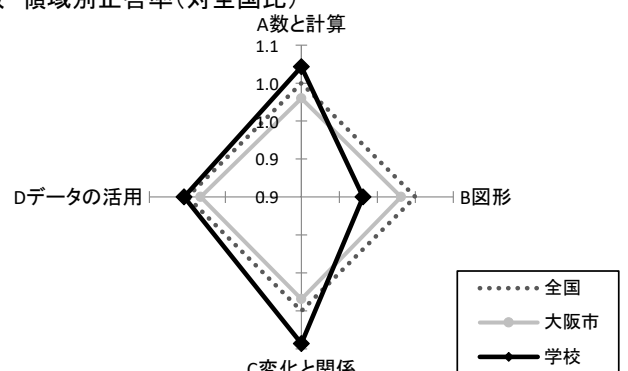
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	71.3	68.4	69.8
B 図形	4	59.6	62.8	64.0
C 測定	0			
C 変化と関係	4	53.5	50.5	51.3
D データの活用	3	69.0	67.5	68.7

算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)

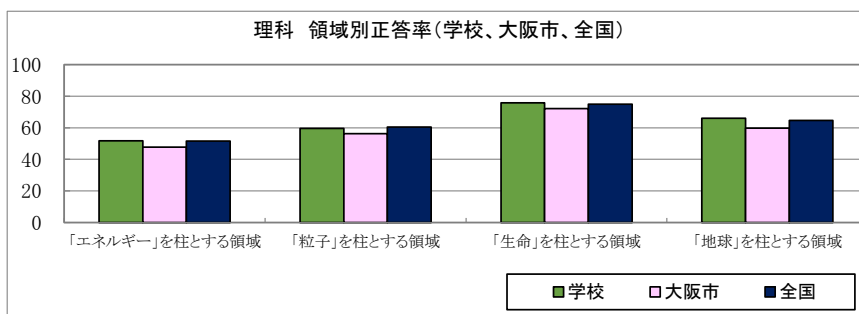


算数 領域別正答率(対全国比)

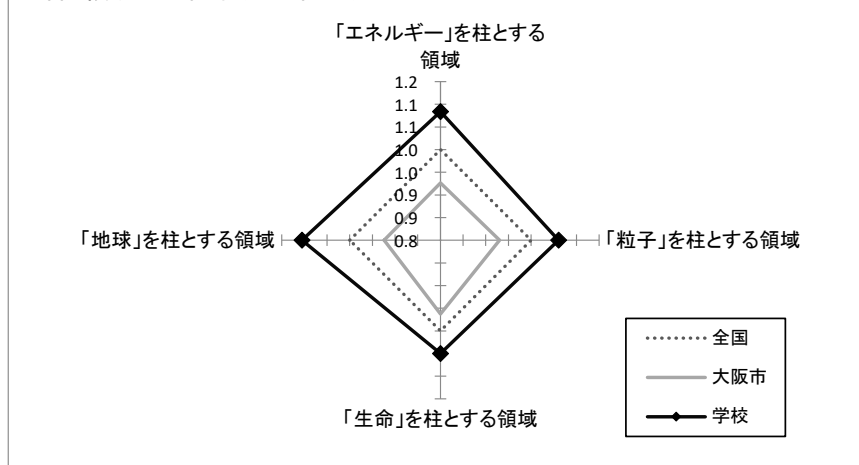


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域		対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
A 区 分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	51.8	47.8	51.6
	「粒子」を 柱とする領域	5	59.6	56.2	60.4
B 区 分	「生命」を 柱とする領域	5	75.8	72.2	75.0
	「地球」を 柱とする領域	5	66.0	59.7	64.6



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問紙より

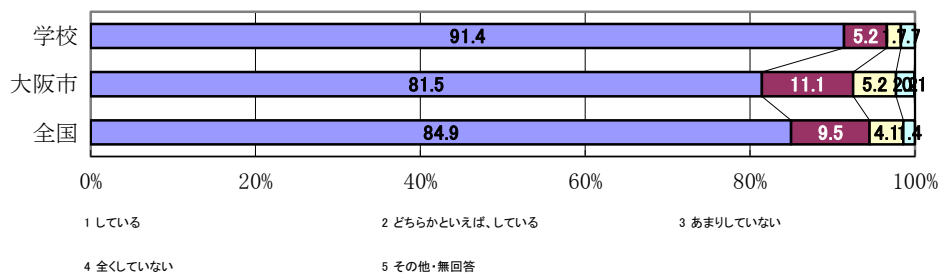
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

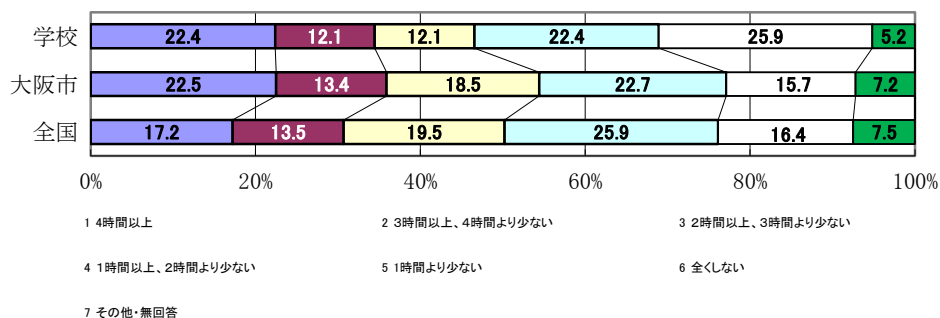
1

朝食を毎日食べていますか



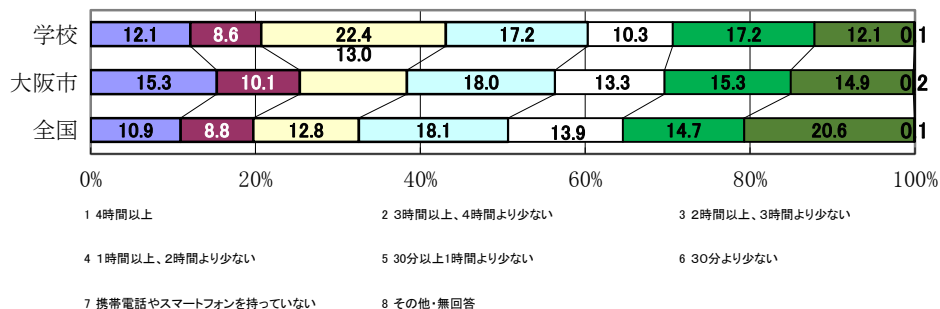
5

普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか



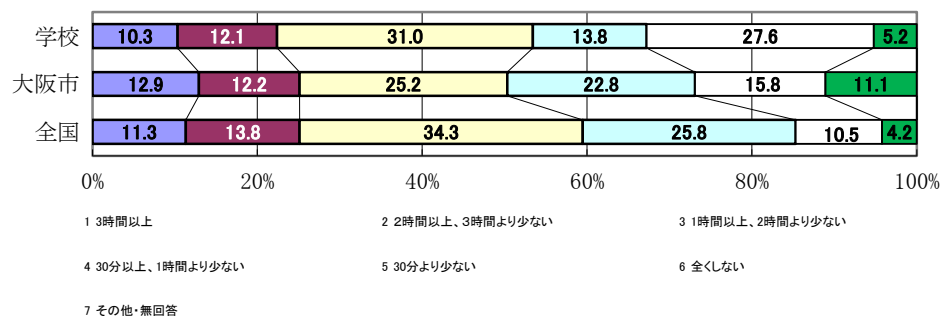
6

普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)



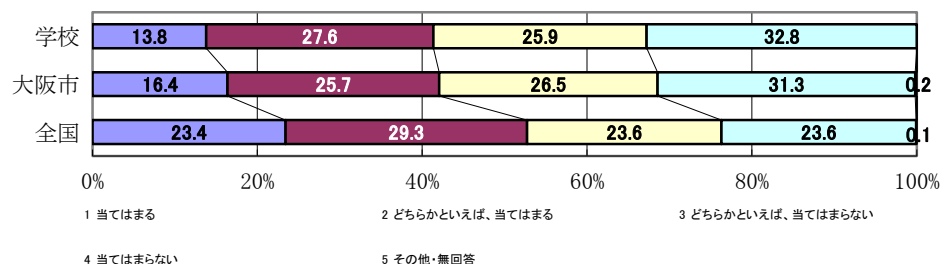
21

学校の授業時間以外に, 普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間, インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



29

今住んでいる地域の行事に参加していますか



児童質問紙より

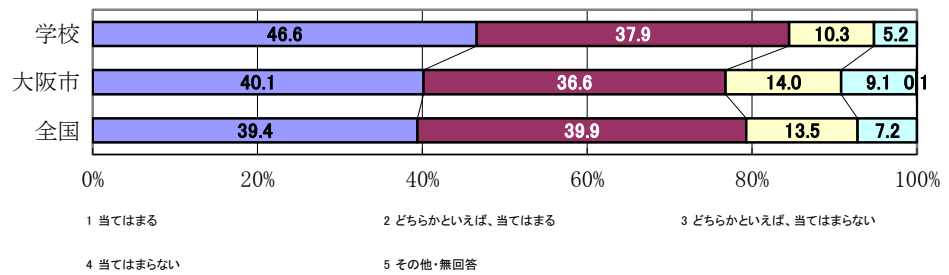
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

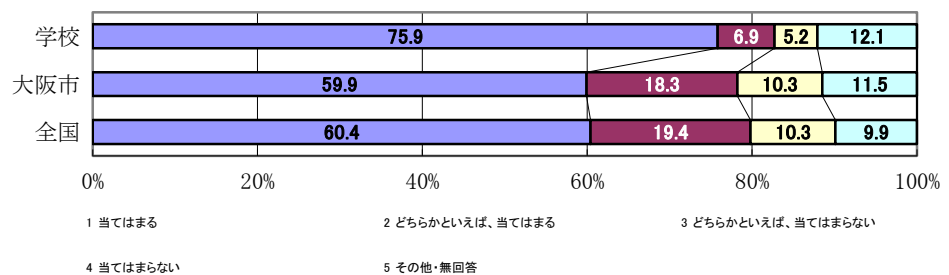
7

自分には、よいところがあると思いますか



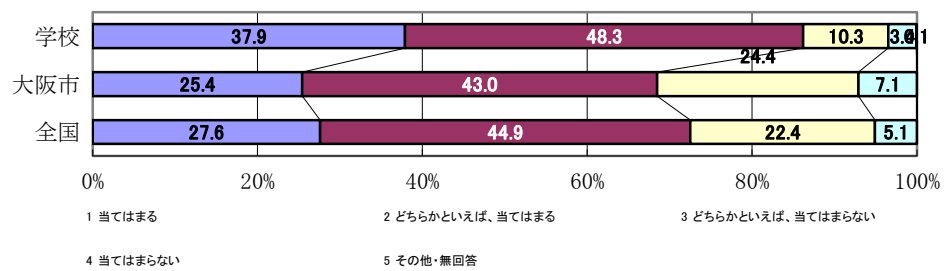
9

将来の夢や目標を持っていますか



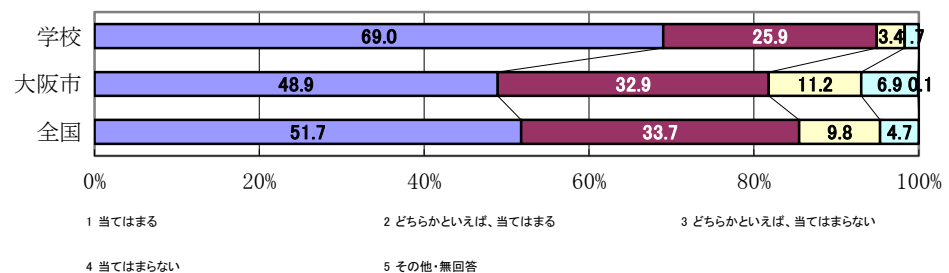
11

難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか



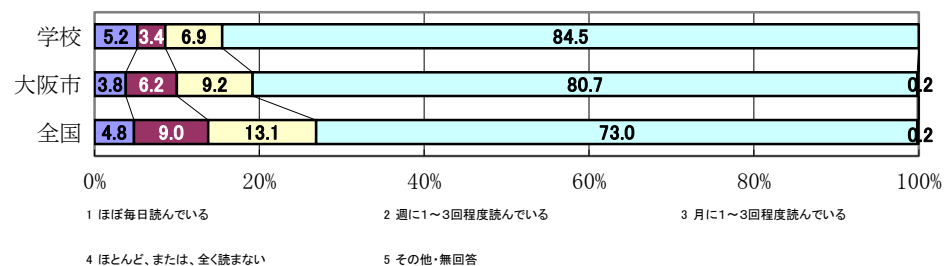
16

学校に行くのは楽しいと思いますか



25

新聞を読んでいますか



児童質問紙より

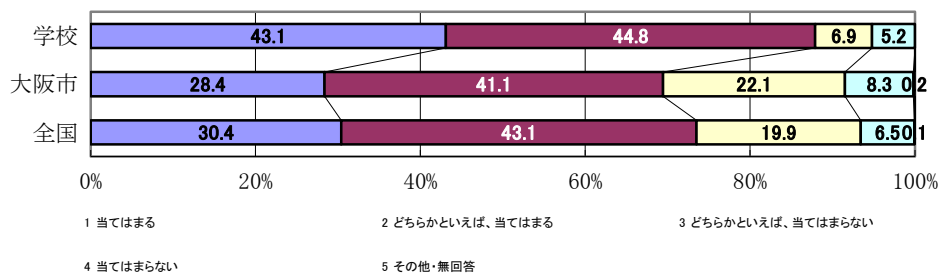
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

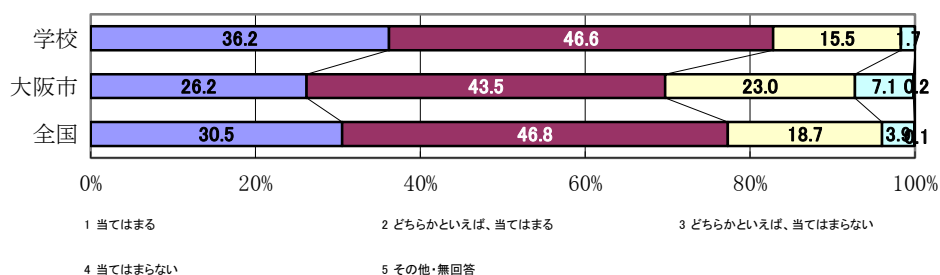
17

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



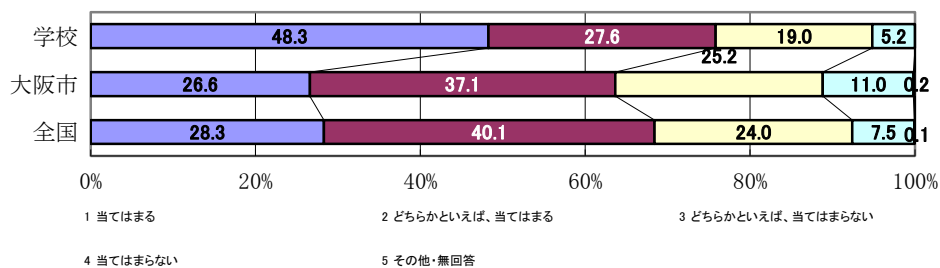
39

5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



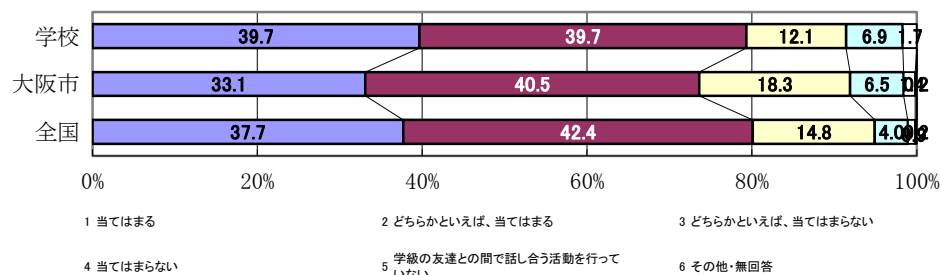
41

5年生までに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか



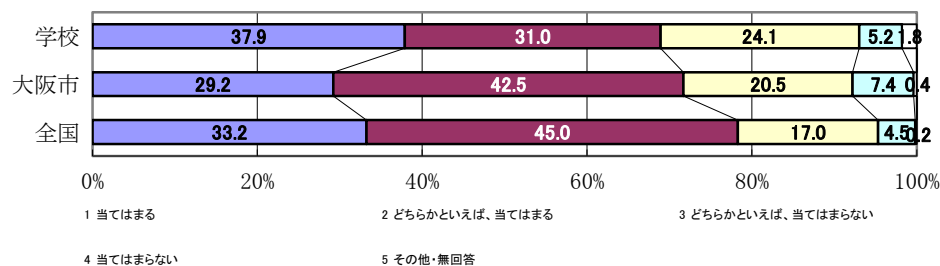
43

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



44

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



学校質問紙より

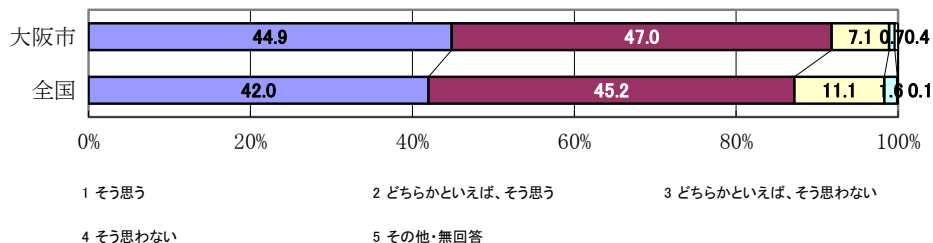
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

質問番号
質問事項

7

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

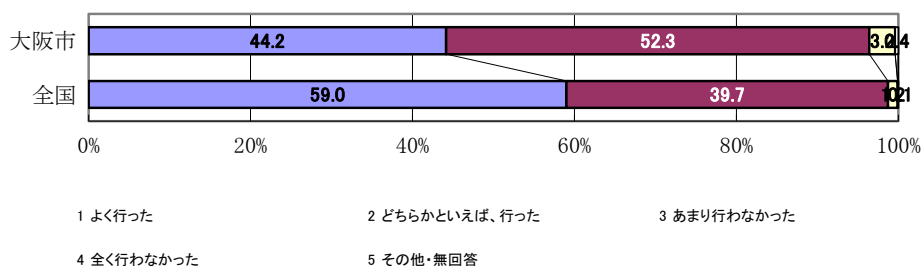
学校 「そう思う」を選択



10

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか

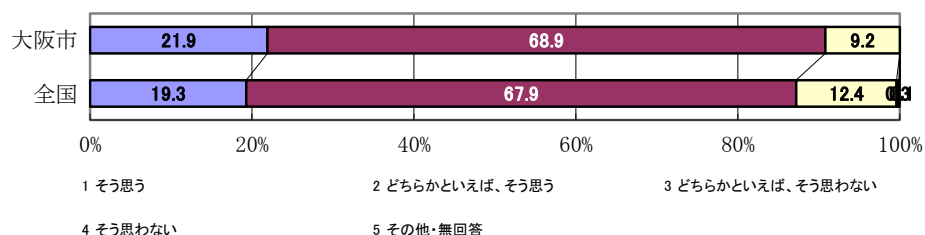
学校 「よく行った」を選択



23

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

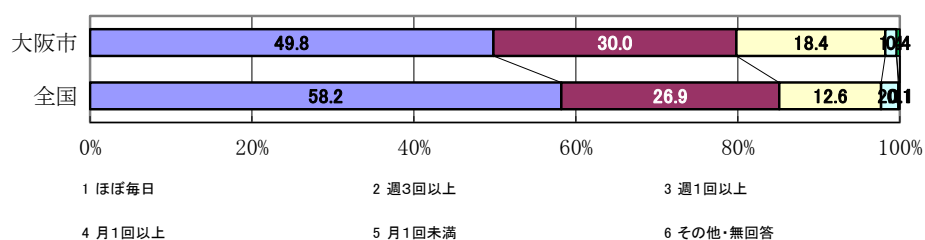
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



59

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「週3回以上」を選択



74

保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加していますか

学校 「よく参加している」を選択

